5. 社会貢献

Contribution

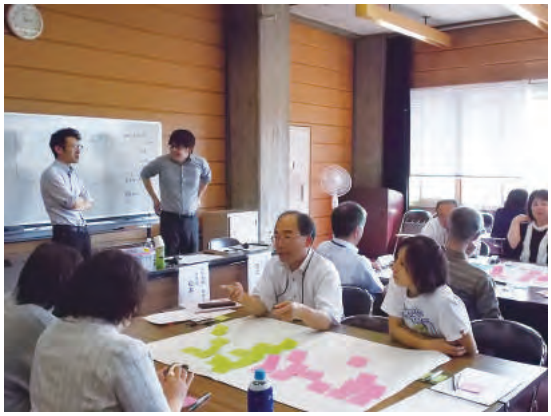
【1】 地域課題をテーマとした公開講座

本学の有する専門的かつ幅広い知的財産を活用して、社会の多様なニーズに対応した教育機会の提供を推進し、社会人の学び直しや地域の分野別リーダー的人材の育成等、地域課題をテーマとした公開講座を実施した。主な実施事業は以下のとおり。

■ 平成29年度弘前大学公開講座・講演会の主な実施事業一覧

事業名	実施場所	対象
青森市社会教育関係職員スキルアップ研修会（全３回）	青森市	市民センター職員、公民館等職員、生涯学習推進員、社会教育委員
地域おこし協力隊研修会（全４回）	弘前市、青森市	自治体職員、地域おこし協力隊、一般市民、本学教職員・学生
弘前市公民館関係職員研修会（全３回）	弘前市	公民館職員、生涯学習担当職員、社会教育委員
子どもの育ちを考えるゼミナール（全７回）	弘前市	子どもに携わる職業人（教員・保育者・児童厚生員等）、実践者（ＮＰＯ，子ども会）、一般市民
放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会（全２回）	弘前市	児童厚生員、放課後児童支援員、放課後子ども教室スタッフ
白神自然環境人材育成講座 (第１期生40回/5講座)(第2期生22回/3講座)	弘前市	高等学校を卒業した者または同等以上の学力を有すると認められる者
地域農業について考える ー国際化が進展する中での青森の食と農ー	つがる市	一般市民
西北郡・五所川原市・つがる市民生委員児童委員合同研修会「地域の福祉について～無口な高齢者との接し方を考える～」	つがる市	西北郡・五所川原市・つがる市民生委員、児童委員
深浦エコサテライトキャンパス開講記念公開講座 「深浦再発見！～円覚寺にみる宗教・歴史・文化の魅力」	深浦町	深浦町民、高校生
深浦エコサテライトキャンパス公開講座 ①白神山地の地すべりが作り出した自然の多様性 ②白神岳で開始したブナ林と植物群落変化のモニタリング調査	深浦町	深浦町民
平成29年度むつサテライトキャンパス 「ジオパーク講座」（全４回）	むつ市	むつ市民
平成29年度むつサテライトキャンパス 「食育・健康講座」（全４回）	むつ市	むつ下北地域在住の生産者や販売関係者、飲食店関係者、調理や加工に興味・関心のある方
平成29年度八戸地域学講座「青森県の産業文化を築いた先人たちの軌跡」～地域の産業文化振興のイノベーターたちに学ぶ～（全７回）	八戸市	青年事業経営者、一般市民
革新的ものづくり企業連携交流サロン	八戸市	企業、支援機関、金融機関等
種差海岸『食』のブランディング研究会（全４回）	八戸市	種差海岸の食堂、民宿事業者
地方創生イノベーション講座（全２回）	八戸市	事業経営者（後継者・管理職）、弘前大学地方創生ネットワーク会議参加者、三八地域の金融機関、地方創生に興味のある方
平成29年度 第1回市民ボランティア講座 「ボランティア・マネジメントの基本（考え方）に学ぶ」	弘前市	市民、学生、行政関係者、教職員
平成29年度 第2回市民ボランティア講座 「避難所設営・運営のノウハウを学ぶ」	弘前市	市民、学生、行政関係者、教職員
平成29年度JSPS二国間交流事業共同研究/セミナー 「地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策」	弘前市	一般市民、行政関係者、学生

事業名	実施場所	対象
平成29年度地域未来創生センター・東北６県合同研究フォーラム「民俗資料の「発見」と新たな「活用」の可能性を探る」	弘前市	一般市民、 行政関係者（教育･観光･地域活性化等の担当者）、 学生
平成29年度地域未来創生センターフォーラム 「文化“財”の活用を通じた地域デザインを考える」	弘前市	一般市民、行政関係者、学生
平成 29 年度地域未来創生センターフォーラム 「東日本大震災からの復興を考える」	弘前市	一般市民、行政関係者、学生
地域社会研究科　公開セミナー「ポスト地方創生」in八戸	八戸市	地域の社会人、自治体関係者、教育研究関係者、 地域おこし等地域で活動する団体・NPO等関係者 ※大学院レベルの研究分野に興味がある方
弘前大学白神自然環境研究所シンポジウム 「未来へつなぐ～津軽半島の豊かな自然～」	つがる市	本学教職員、学生、一般市民
平成29年度 第1回 新エネルギーフォーラム 「北方圏の「省エネ＋創エネ」技術の展開連続セミナー in 青森」	青森市	一般市民、技術者、公務員、研究者等
平成29年度 第2回 新エネルギーフォーラム 「北日本新エネルギー研究所の設立後7年間と今後の飛躍」	弘前市	教職員、企業等関係者、一般市民、学生等
弘前大学総合文化祭　市民公開講座 「腎臓を大切にして健康寿命を実現しましょう」	弘前市	一般市民



青森市社会教育関係職員スキルアップ研修会

地域おこし協力隊研修会

食育・健康講座(むつサテライトキャンパス)

市民ボランティア講座「避難所設営・運営のノウハウを学ぶ」

【2】 履修証明制度等による系統的な地域志向公開講座

弘前大学は、「弘前大学白神自然環境人材育成講座」を平成28年度後期に第一期生10名、平成29年度後期に第二期生３名で開講した。

本講座は、白神山地をはじめとする青森県の自然環境に深い見識を持ち、環境の保全に配慮しながら、自然資源の管理と活用をすることのできる人材の育成を目的としている。

青森県は、世界自然遺産白神山地をはじめ、豊かな自然環境に恵まれている。この豊かな自然環境を、広く世界に、そして次世代に伝えていくためには、自然環境の保全や環境教育活動のできる人材、世界遺産のブランド価値を活用して地域資源を商品化したり、観光客をもてなしたりする観光関連人材、さらに自然環境と共に生きる青森県の未来を創造できる人材が強く求められている。

白神山地に関連する民間団体の実践知と、弘前大学が有する学術知を融合することで、白神山地をはじめとする青森県の自然環境を保全し、賢く活用し、持続的な地域の発展に寄与することができる人材を育成する。

本講座は、弘前大学の教養科目(96時間)と白神を深く学ぶ特設科目(47時間)を組み合わせた計10科目(143時間)の専門人材育成講座で、白神山地と周辺地域について体系的に学ぶことができる。

また、弘前大学における履修証明プログラムに関する規程に基づくものであり、120時間以上の履修等の要件を満たした修了者には、履修証明書が公布される。特設科目の約半分が実査とワークショップからなり、実践的に学べることが特徴である。

履修生は２年間をかけて白神について学び、修了後は、弘前大学が実施する白神をテーマとした事業への参画や、地域に新たな価値をもたらすことが期待される。

■ カリキュラム

[1] 教養課程講義科目 [96時間]	1.「生物学の世界 —生物多様性とその保全—」 [24時間]
	2.「青森の自然—白神学I —」 [24時間]
	3.「地球環境－21世紀の地球環境問題②－ 」 [24時間]
	4.「白神学II」 [24時間]
[2] 特設基礎科目 [7時間]	1.「白神保全論」 [講義4時間]
	2.「世界自然遺産論」 [講義3時間]
[3] 特設応用科目 [40時間]	1.「白神観光戦略論」 [講義+ワークショップ6時間・実査4時間]
	2.「自然ガイド実践論」 [講義2時間・ワークショップ8時間]
	3.「白神ブランド戦略論」 [講義4.5時間・実査5.5時間]
	4.「次世代継承論」 [講義6時間・ワークショップ4時間]
[4] 救命講習 [3時間] (課程外オプション)	

■　弘前大学白神自然環境人材育成講座（第一期生）の特設科目「世界自然遺産論」の様子

■　弘前大学白神自然環境人材育成講座（第二期生）の開講式・ガイダンスの様子

【3】 地域自治体・企業等と連携による幹部級職員対象の講演会

■ 青森市長による講演会 「青森市のこれからのまちづくりの展望」
（平成29年５月９日 開催）

幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献に関わるFD・SD事業として、青森県青森市の小野寺晃彦市長による講演会「青森市のこれからのまちづくりの展望」を、平成29年５月９日（火）に弘前大学人文社会科学部４階多目的ホールで開催した。

この講演会は、平成19年５月に連携・協力に関する協定を締結した青森市の施策に対する見識を深めることを目的として開催した。講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員、教職員及び学生などの本学関係者並びに関係自治体や地方金融機関も含め、81名の聴講者が集まった。

講演者の小野寺市長からは、青森市が目指す三つの姿として「挑戦を誇れる街」「市民の声に耳を傾け、決断する街」「リーダーシップを発揮する街」についての説明があり、この中で産学官金による新ビジネス・地域ベンチャーの支援、本学食料科学研究所と連携した高付加価値化の推進、高齢化の進展に備えた地域包括ケア等の推進、本学北日本新エネルギー研究所との連携をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消などについて取り上げた。また、県都として、青森市だけではなく他の自治体を巻き込んだ施策についても展開し、聴講者の興味関心を引きつけた。

聴講者からは、学生の起業支援の取組や陸奥湾を中心としたエネルギーや環境に関する連携などの質問が相次ぎ、小野寺市長からは、本学や他の自治体の特性を踏まえ相互に連携していきたい旨の説明があり、予定していた講演会時間を過ぎるなど、大盛況のうちに終了した。

■ 青森県藤崎町長による講演会 「りんご“ふじ”発祥の地 藤崎町の魅力」
（平成29年９月12日 開催）

幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献に関わるFD・SD事業として、青森県藤崎町の平田博幸町長による講演会「りんご“ふじ”発祥の地 藤崎町の魅力」を、平成29年９月12日（火）に弘前大学人文社会科学部４階多目的ホールで開催した。

この講演会は、平成27年６月に連携・協力に関する協定を締結した藤崎町の施策に対する見識を深めることを目的として開催された。講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員及び教職員などの本学関係者並びに関係自治体や地方金融機関も含め、約50名の聴講者が集まった。

講演者の平田町長からは、世界一の生産量を誇るりんご「ふじ」の発祥の地でもある藤崎町の取組として、町内会活動やグループ活動支援などの自主組織レベルの支援から、全国で５番目の交付額となった地方創生拠点整備交付金事業などの大型事業の取組、移住・定住促進事業や特産品を活かした食のイベント、メディアを有効的に活用した広報活動など特徴的な取組について講演があった。

聴講者からは、藤崎町の充実した子育て支援について質疑があり、平田町長からは、北欧での教育及び福祉に対する行政支援を例に上げ、グローバル的視野での行政の在り方について説明があり、聴講者の興味関心を引きつけ、予定していた講演会時間を過ぎるなど、大盛況のうちに終了した。

■　青森県西目屋村長による講演会　「『世界遺産と水源の里』の誇りを未来へ発信する」
（平成29年10月10日　開催）

幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献に関わるFD・SD事業として、青森県西目屋村の関和典村長による講演会「『世界遺産と水源の里』の誇りを未来へ発信する」を、平成29年10月10日（火）に弘前大学人文社会科学部４階多目的ホールで開催した。

この講演会は、平成20年12月に連携・協力に関する協定を締結した西目屋村の施策に対する見識を深めることを目的として開催した。講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員、教職員及び学生などの本学関係者並びに関係自治体や地方金融機関も含め、約65名の聴講者が集まった。

講演者の関村長からは、世界自然遺産白神山地の豊かな自然資源を活かした観光戦略、国際的にデザイン力が高く評価されているブナコ株式会社の企業誘致等の空き校舎活用、高校卒業までの医療費完全無料や子宝育成奨励金など11の子育て支援対策、時代にあったエコタウンプロジェクトとしてのバイオマス産業都市構想など、青森県内で最も人口が少ない村だからこそできる、ユニークで魅力的な村づくりプロジェクトについて講演があった。

聴講者からは、全国的に問題になっている人口減少対策や地場産業の振興について質疑があった。これについて、関村長からは、「人口減少はそこまで問題と思っておらず、今住んでいる住民がいかに満足できるかだと思っている。地場産業については、山菜産業について、市場を西目屋村に作りたいと考えている。また、鳥獣被害が大きいので、大学と連携しながら対策を考えたい」との回答があり、予定していた講演会時間を過ぎるまで質疑応答があるなど、大盛況のうちに終了した。

■　岡元青森県議会議員による講演会「きてるぞ！あおもり～人口減少時代における農林水産業の６次化戦略とは～」（平成30年１月９日　開催）

幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献に関わるFD・SD事業として、青森県議会議員・農林水産常任委員会委員長の岡元行人氏による講演会「きてるぞ！あおもり～人口減少時代における農林水産業の６次化戦略とは～」を平成30年１月９日（火）に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールで開催した。

この講演会は、本県における農林水産業に関する見識を深めることを目的として開催された。講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員などの幹部職員、教職員などの本学関係者及び関係自治体や地方金融機関も含め、約60名の聴講者が集まった。

講演者の岡元県議会議員からは、産学官連携によるサーモン養殖事業や地元資源を有効活用したプロダクトアウトとマーケットインの融合、１次産業における知的財産の視点からの６次化アプローチ、人脈活用によるマーケット市場の開拓などについて自身が取り組んできた先駆的な事業を例に講演があった。

聴講者からは、これらの事業を長年やってこられたポリシーやモチベーションについて質問があり、岡元県議会議員からは好奇心や気づき、成果に対する責任感や根気が必要であると回答があり、大盛況のうちに終了した。

【4】グローカル人材育成事業の実施

グローバルな視点で地域の課題を解決できる「グローカル人材」を育成するため、本学と弘前市、弘前商工会議所の三者で設立した「学都ひろさき未来基金」による３事業を展開した。

１．学生市民等協働プログラム

指導教員のもと、学生と市民・企業人が一体となって海外研修、海外事情調査を行った。平成29年度のプログラムは以下のとおり。

■　平成29年度　学生市民等協働プログラム 一覧

No.	部局	事　業　名	訪問国・地域	派遣人数	
1	人文社会科学部	台湾の観光客増加を目的とした弘前市観光ガイドブック流通事業	台湾	教員３、学生９、市民等１	13
2	人文社会科学部	多角的「弘前プロモーション」の海外実践と「弘前ツーリズム」への展開調査	フランス	教員２、学生３、市民等５	10
3	教育学部	タイ・パンガー県におけるインド洋大津波の被害と復興の実態から学ぶ防減災	タイ王国	教員２、学生５、市民等１	8
4	理工学研究科	医療機器開発拠点の形成と国際基準の医用技術者養成のための実践的教育システムの創設	アメリカ合衆国	教員２、学生７、市民等３	12
5	地域社会研究科	加工用リンゴ作業機械化プロジェクト	ドイツ	教員１、学生３、市民等３	7
6	北日本新エネルギー研究所	オランダにおける再生可能エネルギーを用いたスマートシティの現地調査	オランダ	教員３、学生３、市民等２	8

計58

リニューアル後のガイドブック
（左側：表紙，右側：青森グルメ）

このうち「台湾の観光客増加を目的とした弘前市観光ガイドブック流通事業」では、学生と地元企業人によるチームを結成し、台湾人観光客を呼び込むための活動を行った。参加者は、台湾でのガイドブック流通に関することやインバウンド観光客の特性などについての入念な事前調査を行い、平成28年度に完成させた弘前市観光ガイドブックの改善を行った。台湾渡航後は、開南大学学生との合同現地調査を経て現地企業へ赴き、日本語・英語・中国語を駆使してガイドブックを売り込むための営業活動を行った。この結果、実際に２社との販売契約を結ぶことができ、参加者は、地域への理解を深めるとともに外国人目線での魅力的素材を発見したほか、自身のマーケティング能力を向上させることができた。また、ビジネ

スをするために考えるべきことなど、多くの有益な情報を学んだ。今後、台湾における観光ガイドブックの流通により、台湾人観光客のさらなる増加が期待される。

日系物産取扱企業での販売売り込みの様子

台湾系書店での販売成立後の様子

2．学生海外PBLプログラム

本学学生が留学先大学学生と連携して、共通課題に関するショートPBLを学生自らが企画・実施した。平成29年度のプログラムは以下のとおり。

■　平成29年度　学生海外PBLプログラム 一覧

No.	部局	事　業　名	訪問国・地域	派遣人数	
1	教育推進機構	グローカル市民になるためのハワイに学ぶ地域社会の構築	アメリカ合衆国	教員1、学生5	6
2	人文社会科学部	人文社会科学部授業科目「トラベルスタディーズ」に係る学生の海外学習奨励事業	ニュージーランド・フランス	教員2、学生11	13
3	農学生命科学部	農産物・食品のFBI戦略対応人材育成事業ー中国進出日系食品企業での企業研修プログラムー	中華人民共和国	教員2、学生6	8
4	農学生命科学部	農村地域における環境保全型で強い農業を考える	デンマーク	教員2、学生6	8

計35

このうち、「農村地域における環境保全型で強い農業を考える」事業では、環境保全の制度化、教育システムの制度化、農産物のブランド化に成功し、ヨーロッパで農業大国であり続けるデンマークを訪れ、その先進的な農業体制を弘前周辺の農業に役立てるための視察及びアンケート調査を行った。これにより、デンマーク及び日本における農家の実態を把握するとともに、双方の農業制度や環境への取組等についての違いを明確にすることができた。また、デンマークにおける最先端の環境保全農業を弘前に導入するための課題も明らかになった。

参加学生は、本事業での調査をもとに、デンマークの農家が農業を強くするために構築してきた、

教育システム・協同組合・国際戦略等について理解し、弘前市での先進的な取組を導入する新たなプランについて、彼らならではの視点で提案することができた。今後、本事業によりグローバルな視点を身につけた参加学生たちの地域での活躍が期待される。

農業学校訪問の様子

現地でのアンケート調査の様子

3．グローカル人材育成推進事業

平成30年2月23日（金）、弘前市長及び自治体関係者、弘前商工会議所及び企業関係者（寄附者）を招待し、「学生市民等協働プログラム」と「学生海外PBLプログラム」の成果発表会を行った。

参加学生による取組成果の報告、また、海外研修等で得た成果をもとに、地域活性化につながる情報やアイディアを弘前市へ提言するなど、地域との連携強化、そして自治体、市民、企業人と大学との知識共有及び地域に必要なグローバル人材の育成事業に大きく寄与した。

派遣グループによる成果発表

質疑応答・意見交換